

第4回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成27年10月29日（木）13時30分～15時50分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第18会議室

○参加者：18名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

1. 1）渋谷ヒカリエ等（事例紹介）（資料1）について

発言者	内容
松本委員	前回懇談会で、市民会館を建て替える場合どこに建てるのか、ホールを重ねることが可能なのかという話が出た。それを受けて、今回紹介された事例はどれも各機能が積み重なっているもの、面積も収まるようなものだとは認識している。
市民経済局 文化振興室 文化施設係長	前回、市民会館を北側の古沢公園に移す場合、敷地が現在の市民会館の半分にも満たないような場所で本当に収まるのかどうか、という話になった。今回の事例を見てみても、本当に収まるかはまだ判断できない。構想段階で面積的に問題が無くて、設計を始めると後からいろいろ必要なものが出てくるため、構想段階では建蔽率の80%程度に収まるような余裕を持って計画にしないと行けない。2,200席必要だったものが、結果的に1,900席しか確保できなかったということになってはいけない。
JR 東海企画開発部	紹介された3事例はいずれも改築工事された事例であるようだが、今回の金山でホール機能を継承しつつ新しいものをつくるという方向性に対してどの辺りが参考になるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	まず、現状の市民会館ではホールとホワイエが1フロアの中に横に並ぶことで面積が広がっているが、東京芸術劇場の事例ではホワイエを座席下のスペースに入れ込むことで、広がりを抑えている。次に、現状2つあるホールが横に並んでいるのに対して、ホールを縦に積み上げることで広がりを抑えている。そして最後に、渋谷ヒカリエでは、安全で安心なまちづくりのために帰宅困難者への対応を考慮している点が参考になる。今回のアンケート結果でも防災面の強化については関心が高かった。帰宅困難者への対応は計画に必ず取り入れていきたい。
松本委員	住宅都市局としては、なんとか収まると考えているようだが、一方で工事のためには作業用車両も入ってくるし、敷地面積には余裕が必要だろうという意見もある。面積の正確な計算が必

	要だろう。一番の問題は大ホールの配置だと思うが、縦に積めることはわかった。中之島フェスティバルタワーは 2,700 席と大きいが、市民会館は 2,000 席程度なので少し小さくなる。詳細は今後詰めていくと思うが、もしホールがなくなったら、方向性が散漫になってしまうので、重要なキーポイントである。
名古屋まちづくり公社 経営企画室長	文化施設はシンボリックな金山の特徴であると考えている人も多いだろう。
松本委員	ぜひ残してほしいと市民の方が多いだろう。無くなってしまうたら、イメージ形成上よくない。

1. 2) 金山地域に関する人の動き（資料 2）について

発言者	内容
松本委員	南北方向の移動は鉄道、東西方向はバスを利用しているということは分かった。ほかに、平成 13 年から 23 年で自由行動が増え、アクセス圏域も広範囲に渡ってきた、また自転車利用が減少したような印象も受けた。徒歩が意外に多いという印象は正しいか。
事務局	内⇒内の移動は徒歩が多い。
鈴木委員	平日でみると、内⇒外、外⇒内でも、徒歩利用がここ 10 年くらいで増えたようだ。それを考えると、歩行空間の拡充が必要という話になるだろうか。対して休日はあまり変化がないようである。休日に歩行者が増えるように、歩行空間を拡充していくという考えもあるだろう。自転車は特に変化が無いようなので、現状維持で良いかもしれない。
名古屋鉄道株式会社 事業企画部 企画担当課長	アクセスが広範囲になった理由が知りたい。名古屋市全体も広範囲になっているのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	具体的な理由は不明で、あくまで感覚的なことだが、イベント情報などが広く周知されるようになったからかもしれない。また、一度訪れた人が、金山は来てみると割とお洒落なまちだな、と感じてもらえるようになったからかもしれないと考えている。
松本委員	広範囲に渡ってきたことについて、不動産関係の視点から何かしら関係することはありそうか。
前川委員	不動産との関係はわからない。先ほどの話のように、広報が充実してきたことも関係しているかもしれない。
松本委員	10 数年前と比べて金山の魅力があがってきたと感じている。知名度が上がってきているのかもしれない。

交通局 資産活用課長	地下鉄が環状化した影響かもしれない。環状線化が完成したのは平成 16 年 10 月である。
鈴木委員	セントレアの開港も影響していると思う。知多半島からのアクセスも増えているし、桜通線の整備で名古屋の東側からも人が来やすくなったと思う。
交通局 電車施設課長	桜通は平成 23 年 3 月に延びた。
鈴木委員	交通網が延びたことに合わせてということだと思う。
松本委員	資料を読み込むには少し時間が必要だが、なんとなく元気になってきていると感じる。

1. 3) 金山の生活のシナリオ（資料 3）について

発言者	内容
松本委員	紹介してもらったシナリオから良いイメージをたくさん受けた。同時に未開拓な部分もあるとも感じたが、それだけにこの懇談会の話し合いが重要になると思う。

2. 金山駅周辺でのアンケート調査結果（資料 4、5）について

発言者	内容
松本委員	住民の定住意識が高く、金山への評価も高いようである。評価については、利便性に対して高く、緑や防災に対しては低いようだ。東西にある 2 本の南北道路（大津通、伏見通）が、東西移動の際のエッジになっているという印象を受けた。
交通局 電車施設課長	P.11 の丸印（よく行く場所）を見て、アスナルの人氣があるのは見受けられる。回遊性を高めることを目指すのであれば、アスナル 2 号、3 号のように、この丸印がスポット的に配置されれば良いのではないかな。
松本委員	おそらく他の地域だとこの丸印はもっと広がるのだと思うが、金山はコンパクトになってしまっている。アスナル北側の道路を超えた先にもっと丸印が増えると良い。また、若い人がイベントに集まると思うので少し「若者のまち」の傾向がみられると思う。
鈴木委員	P.11 は、施設をどれだけ人が利用しているか、どの道を使ったかなどが読み取れる図だと思うが、起終点、つまり駅利用者がどういうルートで移動したのか、そのパターンが存在するのかなど、なども調べられると良いと思う。併せて、そのルート別に各施設の満足度も測れると、利用者がどのようなルートを使うと満

	足するのか、何を求めているかなどの把握につながるかと思う。性別や年齢別などいろいろな属性別のデータは揃っていると思うが、人の移動と関係を持たせたデータも取れると良い。
松本委員	P.11、12について、性別や年齢別でみるともって特徴が出てくることがわかる。次の説明でこの話をまた扱いたいと思う。定住志向が強かったり、評価が高いことが分かったのは良かった。より良くするために環境改善は大事だが、やりすぎると賑わいが減る。しかし防災や緑化は必ず必要である。
中区役所 まちづくり推進室長	P.28の⑬「地域のコミュニティ、住民同士のつながり」について、アンケート対象者は近隣住民に限らず、広範囲の人が対象になっているのでそのあたりもう少し補足が必要だと思う。
松本委員	同じ感想を持った。住んでいる人と外部の人では回答が違ってくると思う。まちづくりへの参加意識についてのアンケートについても同様である。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	その内容は、資料5のP.44で確認できる。居住者・事業者だけの集計結果を載せている。
松本委員	満足度の評価は、選択肢の一つである「わからない」をグラフの真ん中に置いた方が理解しやすい。
住宅都市局 都市計画課長	P.3の回答者の年齢の割合についてだが、配布はランダムにしていると思うので、この割合がそのまま駅利用者の年齢の割合と考えればよいのか。 利用者の平均年齢が高いようなのが気になる。イベントは若い人にとって魅力的であるという結果から考えれば、金山はポテンシャルがあると考えてよいのか。
松本委員	若い人はアンケート自体をあまり受け取ってくれないということが理由のようだ。
前川委員	配っている場所はどのあたりなのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	南北の連絡通路上である。比較的地下鉄よりはJRや名鉄で多く配っている。
前川委員	市民会館への人の流れは地下通路が一番多いので、アンケート結果に反映されていないのではないかと思う。講演があるととても混雑する。金山は気軽に飲食ができるため、若い学生が多いという印象がある。市民は一日でも早い市民会館の建て替えを望んでいるのではないかと思う。

松本委員	関連した話題が出たので先に資料7について少し触れると、直接のインタビューだと若者がインタビュアーということもあり、若者が回答してくれることがわかった。特にカップルが良く回答してくれる。10代は恥ずかしがって回答してもらいにくい。郵送アンケートは若者はあまり返さないのだろう。 市民会館へ大挙した人々が帰りも地下道を使うと、一直線にただ帰ってしまうことになりもったいない。シナリオにもあったが、コンサートなどの目的後にどこか施設に立ち寄る動きがほしい。
------	---

3. 金山駅周辺まちづくり構想（素案）（資料6）について

発言者	内容
松本委員	P.52 動線イメージは、各交通・移動手段を表す矢印の色が似ていて判別しづらい。色分けの方法などを変えた方が良い。表現方法について、P.51 はまだ柔らかいが、P.52 は固いと感じる。型にはめられて動きが取れないようなイメージになっている。シンボル軸自体はもちろんあっても良いと思うが、歩行者は実際には回ったり行き来したりするものなので、回遊を表現すべきである。現状のシンボル軸のイメージに加えて、歩行者の広がり表現されると良いと思う。
鈴木委員	この地区に入ってくる車の駐車は都市計画駐車場でまかなえるという理解で良いか。フリンジ駐車は計画しているか。現状では都市計画駐車場以外にも地域に点在するコインパーキングが補っている。歩行者優先エリアを計画するのであれば難しいかもしれないがそのあたりのイメージもあると良い。 また、駐輪場は南口、北口それぞれに、総合駅に直結する場所に配置するということだが、南口については現状のものに増設する考えなのか。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	南口に増やすイメージはない。北側をどうするかはこれからの議論である。
鈴木委員	北口も現状の量を維持するという考えでよい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	パーソントリップ調査での自転車利用の傾向を踏まえつつ、イオン前の歩道上に設置された駐輪場もそのままで良いのか、1箇所に集約すべきかも併せて検討したいと考えている。
松本委員	P.61 でバス乗り場が鉄道駅と隣り合っているようだが、バスが利用しやすいのは重要だとしても、鉄道駅と直近にする必要性が果たしてあるのか。乗り場と駅の間には何かあったほうが良いの

	ではないのだろうか。施設と施設の間を徒歩で移動してもらって、その間に鉄道駅やバス乗り場があるというイメージを持っている。徒歩で移動することで物語が生まれると良い。駅とバス乗り場が中心にあって周りに施設が散らばるのではなくて、駅とバス乗り場の間にも歩行空間があるべきだと思う。
緑政土木局 企画経理課主幹	私は逆の意見を持っている。金山の強みは、各交通手段の乗り継ぎ利便性や速さが、名古屋駅や栄に比べて圧倒的に良い点である。そこに各鉄道会社のサービス向上や地下鉄環状化、アスナルとセントレアのオープンが重なり、遠方からの利用者を増やしたと思う。課題は拠点施設の配置計画にあると思う。市民会館が良く利用される理由は、地下通路で直結している利便性が大きい。距離を作ってしまうと、今までのように利用してもらえるかどうか疑問である。利便性を優先させるのか、来街者を地上に誘導させた方が良いのか、よく議論した方が良い。鉄道結節点へのニーズに応えることで集まった利用者が、たまたままちを利用しているという現状から、関心を持って来てもらえるような新たなウォンツをつくり出し、それに合わせて配置計画を立てるなど、根本的にまちの性格を変えたいのかどうかを検討すべきだろう。そういった方向性が固まったものに対して、施設管理者である我々が、お金の面でも制度の面も実現できるか調整していくことになる。
松本委員	駅の利便性は高いが施設の利用者がいない。また、駅から外に引っ張り出されて面倒だが、施設に利用者ができるというような両面性があると思う。大事なのはつなぎ目が楽しいということである。東京駅は長い距離を歩かされるため、つまらないと大変なことになる。便利で商業も活性化されるということを目指したい。
交通局 自動車施設課長	私も立場上、各交通インフラが1箇所にとまっている方が良いという考えに近い。回遊性を否定しないが、交通結節点の利便性を消すというのは極端な方法だと感じる。利便性を維持しつつ、日々の鉄道利用者に現状より少しでも構内から外に出てもらえれば大成功かと思う。
松本委員	便利なことは大切である。ただ、乗換え移動の間がカギとなるのに、今のコンコースは駅前の様子がわかりづらく、魅力が伝わりにくいと感じている。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	P.61の文中にある「廃止」という部分は誤字で「配置し」の誤りである。そして、バス・タクシー乗り場については北側にも置く考えである。

交通局 資産活用課長	ひと昔前は、名古屋は休みの時に遊びに行きたいと思える都市ではなかったと思う。構想の狙いにもなっていると思うが、金山を知らない人が訪れたとしても、面白いまちだ、と感じてもらえるような計画にできるとよい。個人的には、金山ではアスナルのバナナレコードと市民会館西側のレコード屋によく通っており、自分にとって金山はレコード屋があるまちというイメージ。文化拠点など何を目指すとしても、現在のシンボル軸の道はさびれていると思うので、そこにどんな施設を配置するかが重要である。市民会館の正面をシンボル軸側にするという手もある。店舗の配置等まで考えて、金山駅から見て魅力的に映るような設計にすべきである。自分はバスターミナルを駅から離してはいけないという立場だが、それでも利用者に足を運んでもらえるような魅せ方を考えるべきである。
交通局 電車施設課長	P.53 動線計画図に7つある地域内回遊のエリアごとに詳細な仕掛け図がほしい。特に一番北側のエリアは仕掛けが無いと人が行かなそうである。アスナル2号、3号の配置も表現に加わるのだろうか。P.54の施設配置図で表現してほしい。
松本委員	途中なのでまだ表現されていないかもしれない。もしまだなら加えてほしい。行き帰りのどこか途中で、レコード屋やレストランに立ち寄るというように、それぞれのシナリオや動線が見えると良い。また、船を載せて良いのかわからないが、将来的には堀川を使って船で行き来する計画を考えたい。夢を持たせても良いと思う。水辺を活用するのは重要である。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	船のネットワークはP.37に載せており、個人的にも魅力を感じている。残念ながら、現在金山駅付近に船着き場は無いが、航路は存在しているため可能性はある。
松本委員	キャナルパークという名前だったかもしれないが建物の中に船着場があるところもある。ホテルの中にあったりするととてもよさそう。近くに船着き場があると嬉しい。
緑政土木局 企画経理課主幹	シンボル軸を中心に考える方向性で進めると、例えば大津通の東側やボストン美術館の南側道路向かいの店舗の方々など、既存の商業者は気もそぞろになってしまうだろうか。アンケート結果を見ても土地利用に対して保守的な傾向がみられる。大きく配置を変えることでさびれてしまわないだろうか、と心配する人も出てくることも考えられるため、配慮が必要だろう。

松本委員	重要な指摘事項だと思う。シンボル軸からムカデの足が出るような、ループのような回遊のイメージを加えてほしい。シンボルルートに幅を持たせるようなものだろう。
鈴木委員	P.50 ゴーニングイメージで、シンボル軸に対しての回遊性の点線がつながっていないので、この線をつなげて、広がっていくことも表現できれば、松本委員の指摘事項の改善になると思う。また、それぞれの場所で吹き出しが何かでイメージ図を載せられたらよいと思う。先ほど指摘された南側の商店など既存の商店周辺についてもイメージをつくることで配慮につながるだろう。 鉄道駅とバスの関係についてはやはりアクセスし易いというのが第一かと考えている。
松本委員	例えば、駅とバス停の間が 100m 程度あり、そこにデッキをかけたとして、通過することで利用者が金山のまちを見ることができると少しイメージした。そうすれば、現状のバス停周辺の混乱状態は解消できると感じた。
鈴木委員	鉄道駅とバス停が直近か、あるいは離れている方が良いかという二者択一ではない。松本委員が今述べられたようなイメージが載せられると良いと思う。資料について、各パーツはできているので、あとはつながりを持たせることが必要だろう。
松本委員	表現方法はいろいろあり、コンサルの方もよく分かっていると思う。これからより素晴らしいイメージが出てくることを期待したい。大切なのは、鉄道やバスではなく、あくまで歩行者に施設がついてくる。そこを忘れないように計画しなければならない。

4. その他（資料7）について

発言者	内容
松本委員	年配の方のほう地域になじんでいるので、認知している施設の範囲が広いのだろう。若い人は外から来るので目立ったものに関心が行くのだと思う

5. 全体を通して

発言者	内容
緑政土木局 企画経理課主幹	事例紹介について、全体の事業費、建設費、事業スキームなどを資料中に反映させてほしい。誰がどんなお金を出してどういう形で実現されたのか割愛されているので情報共有のためにも希望する。概算でもイメージができないと具体的な検討ができない。

	また、おそらく施設配置がまだ決まっていないことで記載できていないのだろうが、広場の配置や防災空間、駐輪場などの配置検討の際は、今まで通り事務局には密な調整をお願いしたい。
住宅都市局 まちづくり企画課 企画係長	事業費は最後に肝になってくると思う。改めて事業費という切り口で事例を集めたいと思う。関係各所との連携・調整は今後もしっかり行っていきたい。
松本委員	施設配置はおそらく1つには決まらないだろう。ゾーニングのバリエーションがあった方が良い。
緑政土木局 企画経理課主幹	一定の確度をもった計画に対し、周辺住民の意向などを反映させ、整合とれるように懇談会で話合っていく方法か、あるいは理想を高く持って構想された計画から導き出された施設配置案に対して、関係各所がやれる範囲で実行していくという進め方なのか、進め方は1つではないと思うが、その辺りは事務局と委員で事前に決めてもらい、その後関係各所に振ってもらえるとよい。
松本委員	現実的に実現する方法を考えるべきだろう。あまりバリエーションがあっても收拾がつかなくなって困るだろう。ある程度案はしばって議論をしたい。
熱田区役所 まちづくり推進室長	金山の生活シナリオは素敵だと思った。アンケート結果を見て、防災の関心が高いと感じた。ヒカリエの事例で、帰宅困難者の収容場所になるというのは良い仕組みだと思った。新しい施設を作る際はそういった観点をに入れてほしい。
名古屋観光コンベンションビューロー コンベンション部長	ビル内にホールを積む事例を紹介してもらったが、ぜひその中に宿泊施設も入れてほしい。ホール利用後に飲食してもらったり、宿泊してもらうなど、駅での滞在時間が延びるようにしてほしい。 また、アンケート結果により、金山のイメージが非常に良くなっているとわかって勉強になった。
住宅都市局 交通施設管理課長	アスナルをつくった時は、乗換え利便性を高めて、人を外側に引っ張り出そうという戦略だったと思う。それがある程度成功したため、今度はもっと外に引き出そうということで南北を開発する方向になった。しかし、今回の構想では、金山に新たな色を付けたいのか、現状よりも少し駅構外に人を引っ張り出したいのか、方向性が少し見えづらくなったと感じている。色を付けたいという考えであるならば行政サイドでやるべきなのか、地元をもっと巻き込む必要があるのか、どうすべきなのかを思案していた。

松本委員	基本の部分が少しぼけてしまっていた。駅をどうすべきか、少し曇って来たところがあるのだろう。交通結節点であるから人が自然に駅周辺を利用する、あるいはそれ以外の魅力や仕掛けをつくることで周辺利用が広がる、など考えられる。ホテルは両方につながる話だろう。結論としては金山のアイデンティティをより良いものにしたいということだと思う。
------	---